

問1　すでにメニューに書いてある取組を行っている場合は、その取組を助成対象の取組とできないのか。

(答)

本事業では、既に取り組を実施している農業者であっても、その取組についてさらにコストを下げるための工夫をしていただければ、既に行っている取組も支援の対象とすることとしている。(例えば、昨年に直播をすでに実施している生産者であっても、新たに工夫をすれば支援対象となります。)

具体的には、

- ① 「堆肥散布、土壌分析、生育診断」のメニューについては、分析や施肥の時期などを記載した「施肥管理計画」を作成してもらうことにより支援の対象とします。
- ② この他の取組については、「生産コスト低減(26年比2%以上)が可能な本メニューに係る新たな取組を実施」といった工夫をしていただければ、支援の対象とします。(問2参照)

なお、2%以上のコスト削減を示すデータの提出や26年産の生産に係る資料を提出する必要はありません。

問2　それぞれのメニューの支援対象となる取組内容として、「生産コスト低減(26年比2%以上)が可能な本メニューに係る新たな取組を実施」とあるが、2%のコスト低減効果をどう担保すればよいのか。

(答)

生産コスト低減計画の「効果向上取組計画」の記載欄の記入により申込みの要件を満たすこととなります。

この際、可能であれば、県やJAにおける実証試験の成果などを踏まえ、コストが低減することが可能な取組を申請して下さい。試験成果などが無い場合は、生産者が慣行的にコスト低減を図られると判断できる取組を申請して下さい。

なお、取組の実施による生産コストを試算して算出したり、26年産の生産コストと比較して提出したりする必要はありません。

問3 取組実施後、報告を行うこととなるが、2%のコスト低減効果を確認する必要があるのか。

(答)

本事業は、取組を行っていただくことで「実施」したこととみなします。

このため、報告では、

① 所定の様式に農業者自身による取組の評価の欄にチェックをしていただくほか、

② 事業申請時に記載した取組を確認できる資料として、労働時間の削減であれば労働日誌、肥料や農薬量の削減であれば購入伝票、

などを添付していただきます。

27年産の生産コストと26年産の比較を行うことは求めないので、26年産に係る資料を提出する必要はありません。

なお、報告様式の代表例を添付しますので参考にしてください。

問4 コスト低減効果が認められなかった場合に補助金を返還しなければならないのか。

(答)

申請していただいた取組を実施したかどうかで判断することとしており、2%のコスト低減効果が認められたかどうかで補助金の返還を求めることはありません。

取組実績の詳細 (疎植栽培の実施状況)

1. 具体的な取組内容

(1) 実施面積

計画面積	h a
実績面積	h a (実施率 %)

(2) 疎植栽培で移植に要した苗箱数

箱 (箱/10a)

(3) 移植密度

計画段階の移植密度	株/坪 (3.3 m ²) ・ 株/m ²	慣行比 ※	%
(出典) ※			
移植密度 (実績)	株/坪 (3.3 m ²) ・ 株/m ²		
(慣行栽培の移植密度)	(株/坪 (3.3 m ²) ・ 株/m ²)		
(出典) ※			

※ 計画書提出時と同様の内容を記載して下さい。

(4) 疎植栽培に関して取り組んだ内容

<input type="checkbox"/>	① 疎植に対応した田植機を新たに導入						
	<table border="1"> <tr> <td>型式名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>導入方法</td> <td><input type="checkbox"/> 購入 <input type="checkbox"/> リース</td> </tr> <tr> <td>植付条数</td> <td>条</td> </tr> </table>	型式名		導入方法	<input type="checkbox"/> 購入 <input type="checkbox"/> リース	植付条数	条
型式名							
導入方法	<input type="checkbox"/> 購入 <input type="checkbox"/> リース						
植付条数	条						
<input type="checkbox"/>	② 生産コスト低減 (平成 26 年比 2 %以上) が可能な疎植栽培に係る新たな取組を実施						

※ 計画時に記載の項目の□に✓を記載し、必要事項を記入してください。

2 生産コスト低減効果の評価

(1) 狙っていた生産コスト低減効果等

<input type="checkbox"/>	① 労働人数・労働時間の低減
<input type="checkbox"/>	② 資材費（肥料費、農薬費、種苗費、その他資材費）の低減
<input type="checkbox"/>	③ その他（具体的に記載してください。）

※ 計画時に記載の項目の□に✓を記載し、必要事項を記入してください。

(2) 取組による（1）の狙いに対する評価

<input type="checkbox"/> コストは低減された	<input type="checkbox"/> 変化なし	<input type="checkbox"/> コストは増加した

※ コストは低減された、変化なし、コストは増加した、のいずれかの□に✓を記載し、そう判断するに至った結果についてできるだけ定量的（10a 当たり労働時間〇〇時間減など）に記載してください。

※ 1の（4）で②を選択した場合は、計画時に提出した「効果向上取組計画」の内容について具体的に記載してください。

(3) 次作に向けた改善点及び今後のコスト低減に関する方針

--

※ （2）の内容を踏まえて記載してください。

※ 添付書類

- ・写真（移植に使用した機械及び移植密度が確認できるもの（スケール付き））
- ・都道府県等による疎植栽培の基準に従う場合は、基準が確認できる資料の写し
- ・「1（4）①疎植に対応した田植機を新たに導入」を選んだ場合は、機械の導入が確認できる資料の写し（新たに機械を導入した場合）
- ・「1（4）②新たな取り組みを実施」を選んだ場合は、その取組の実施が確認できる資料
- ・作業日誌等の写し（作業内容、作業人数、作業時間が把握できるもの）
- ・「2（1）②資材費の低減」を選んだ場合は、資材費（肥料費、農薬費、種苗費、その他資材費）が確認できる資料
- ・「2（1）③その他」を選んだ場合は、そのコスト低減効果の評価内容が確認できる資料